2008 年 1 月 15 日

Platts 社発表の“2007 年石油の 10 大ニュース”

Platts 社は、石油をはじめエネルギー全般に関する世界の情報を発信していることで有名ですが、同社の発表する石油価格が中東の様な産油国と日本のような消費国の価格決定に用いられていることでもその名が知られています。その Platts 社が Web 上を通じて読者にアンケートした“2007 年の石油業界の出来事 Top-10“ を昨年末に発表しました。その内容を紹介します。

①石油の高騰: 100$に達した WTI 価格
②原油生産余力の先細り、供給と需要バランスのタイト化:ピークオイル論に対する関心の高まり
③オイルメジャー各社による原油生産減衰の報告
④ベネズエラ政府による外国企業操業油田の接収
⑤先進国における石油需要の低下(中国などの発展途上国における需要増大分を超える)
⑥気候変動問題が世界的関心事となったこと:合衆国議会における温室効果ガス排出制限義務化の決議
⑦中国での石油戦略備蓄の開始
⑧OPEC による 11 月の 50 万バーレル／日の原油増産とその後の増産拒否
⑨ブラジル Tupi 地区での大油田の発見
⑩米国におけるエタノールの利用拡大と価格の急落

この結果を見ると、日本ではあまり注目を浴びなかったものもありますが、世界の石油産業に影響を与えるものが何なのかを知ることができます。Platts 社はこのアンケート結果についていくつかのコメントを付け加えていますが、そのコメントも世界の石油を理解する上で役に立ちそうなので紹介します。

＊ ①と②は、供給と需要のバランスがタイトになったことや、生産余力が先細りしていることが原因で原油価格が$100 になったものなので、同じ問題だ、という議論もある。しかし、$100 の原因は、投機マネーあるいは米国政府が高価格原油を戦略備蓄に投入したことも影響したという考えもあり、必ずしも①と②は同じものとはいえない。
＊ ③のメジャー石油会社の生産減少についても幾つかの要因が関係している。メジャーの生産減少はピークオイルの結果ともいえるが、ベネズエラにおけるのと同じように、世界中の多くの場所でのメジャーの投資機会が終結しつつあることがより大きな原因ということもできる。
＊ ⑦の中国における原油備蓄に対する関心が、予想より高かったのは、中国での戦略備

蓄のみならず米国での戦略備蓄も始まったため、この２件が相乗的に関心をたかめたためと考えられる。

Platts 社の Top-10 はアメリカを中心に世界をみたものです。わが国の機関でも石油の Top-10 を発表しているものもありますが、これらは日本国内のみ見たもので、残念ながら日本を中心に世界を見たものは無かったようです。はたして、日本を中心に世界の石油産業を見渡した場合の重要な出来事は何であったのでしょうか。そして今年はどんな出来事が発生するのでしょうか。石油価格の高騰が日本経済にも影を落とし始めていますし、地球環境問題に対する積極的な行動も国際的に求められるでしょう。またエネルギー安全保障上の問題も控えています。これらの問題に適切に対処していくためには、世界の動向を的確に把握していく必要があるのはいうまでも無いことです。今回は Platts 社が発表した 10 大ニュースそのものを紹介しましたが、これから機会があれば、今回ニュースになったような重要と思われる出来事についてその都度、本ホームページ上で報告してみたいと思います。

（エイジアム研究所 研究主幹　熊川　滉）

Asiam Research Institute　http://www.asiam.co.jp/